

電子書籍と紙媒体書籍の使い分け

－学習効率の観点から－

氏名 菊地春希

本論文は、電子書籍と紙媒体の書籍を消費者はどのように使い分けているのかアンケート調査を行い、調査結果を分析したものである。中でも利便性と記憶という点に焦点を当て調査を行った。調査の結果、利便性という点では消費者は漫画や小説は出先で気軽に読むことが多いため電子書籍で買う人の割合が多い、資格取得・学習参考書は家でじっくりと勉強できるように紙媒体の書籍で買う人が多いというように、書籍のジャンルやそれぞれの書籍媒体のメリット、デメリットを考えて使い分けしていることが分かった。また、記憶という点では電子書籍よりも圧倒的に紙媒体の書籍の方が記憶に残りやすいと感じる人が多い結果となった。この結果から、筆者は電子書籍と紙媒体の書籍では読む際の作業に違いがあるため、記憶の定着度にも違いがあるのではないかと考えた。紙媒体の書籍はページをめくる作業をするが、電子書籍は画面をスクロールするだけである。そのため、紙媒体の書籍の方がゆっくりと丁寧に読むことができるだろうと考えられるため紙媒体の書籍の方が記憶に残りやすいと感じる人が多いのではないかと考えた。

また、結果の分析では、性別で書籍の選択に差があるのかと、学生・社会人で書籍の選択に差があるのかを調べるために行ったカイ 2 乗検定と、学生の電子書籍の購入金額と社会人の電子書籍の購入金額の平均間に差があるのかを調べるために分散分析を行った。分析結果として、カイ 2 乗検定ではどちらとも有意な差は見られなかったが、分散分析では有意な差が見られた。